

科学キッズフェスティバル in 京山祭に参加

令和元年12月8日(日)に、生涯学習センターにて「科学キッズフェスティバル in 京山祭」が開催され、本校からは1年理数科の6名が「いちのみや実験教室」と題したブースを出展しました。

今年は恒例の『スライムづくり』はもちろんのこと、10月に行われた社会貢献活動の小学校訪問で人気だった『スーパーボールづくり』も加え、さらに待ち時間に手持ち無沙汰にならないよう『ベンハムこま体験』も準備しました。



『スライムづくり』『スーパーボールづくり』は準備の関係上、午前・午後それぞれ先着30名としましたが、午前・午後ともに長蛇の列ができ、あっという間に整理券はなくなりました。聞きしに勝る盛況ぶりに生徒たちは面食らっていましたが、八面六臂の活躍でブースを訪れた子どもたち(&保護者)をしっかりとてなしてくれました。

また、『ベンハムこま』も意外と人気で、『スライム』『スーパーボール』待ちのつもりが、こちらに熱中するという一幕もありました。

ノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎先生の

不思議だと思うこと。これが科学の芽です。

よく観察して確かめ、そして考えること。これが科学の茎です。

そうして最後になぞがとける。これが科学の花です。

という言葉は有名ですが、今回の体験が訪れた子どもたちに「科学の芽」を芽吹かせるきっかけとなれば望外の喜びです。

【生徒の感想】

- 幼稚園児や小学校低学年の子どもたちでもわかるように説明するのは難しかった。
- スライムやスーパーボールが何故できるのか質問されたけど答えられなかったので、自分で勉強して次の機会には答えることができるようにしたい。
- 子どもたちが楽しそうに取り組んでくれたので、自分も楽しかったし、嬉しかった。